



## 北九州市上下水道局の国際貢献 ～海外水ビジネスの取り組み～

北九州市上下水道局海外事業課 木庭 幸経

北九州市では、アジアを中心とした国・地域を対象として、国際技術協力と海外水ビジネスを2つの柱に、上下水道分野の海外事業を展開しています。

### 国際技術協力

北九州市では、市民・企業・行政が一体となって公害克服に取り組んできました。その間に蓄積された技術と経験を活かし、多岐にわたる国際技術協力を行っています。

上下水道分野では、これまで13か国に184人の専門家を派遣し、また146か国から4,924人の研修員を受け入れてきました(2016年3月末現在)。とりわけ、20年以上続いた内戦により、都市インフラが壊滅的なダメージを受けたカンボジアの首都プノンペンでの取り組みは、「プノンペンの奇跡」として国際的に高い評価を受けています。

内戦終結後間もない1999年、北九州市上下水道局(当時水道局)は、厚生労働省(当時厚生省)およびJICAの要請を受け、プノンペン水道公社に最初の専門家を派遣しました。内戦終結直後の1993年当時、首都プノンペンの水道普及率はわずか25%、給水時間は1日のうち10時間、漏水率は70%を超えるという危機的な状況にありました。しかし、2003年にJICA技術協力プロジェクトへの本格的な専門家投入が始まり、わずか3年後の2006年には、水道普及率92%、24時間給水、

漏水率8%を達成しました。2005年にはカンボジア政府が「飲用可能宣言」を出すなど、プノンペンは、蛇口から24時間いつでも安全な水が飲める首都へと変貌を遂げました。

北九州市の協力はこれにとどまることなく、2007年からは、地方の主要8都市における浄水場の運転維持管理、漏水対策、水質検査などの技術指導を開始し、2012年には、これらの都市においても24時間給水が実現されるとともに、漏水や水質にも大幅な改善が見られました。2012年以降は、これら8都市に対する料金徴収や財務管理といった経営管理指導の協力がスタートし、2015年末時点で、全8都市の水道局が単年度黒字決算を達成するまでに財務状況が改善されました。

これら一連の協力事業を通じて、カンボジアの都市部においては、現在も安価で持続可能な水道サービスの実現に向けた取り組みが着々と進んでいます。



カンボジアでの技術指導の様子

北九州市は、これまで積み重ねてきた上下水道の技術やノウハウを活かし、ベトナム、ミャンマー、インドネシアなどで同様の技術協力を行っています。このような活動は、相手国への一方的な国際貢献にとどまらず、諸外国政府や水道関係者との人的ネットワークの形成や、北九州市自身の若手人材の育成や技術の継承にも役立っています。

## 海外水ビジネス

北九州市では、このように国際技術協力を通じて培った諸外国との「厚い信頼関係」をベースに、2010年、全国に先駆けて、官民連携組織である「北九州市海外水ビジネス推進協議会」を設立し、本格的な「海外水ビジネス」の取り組みをスタートさせました。

同協議会には、2016年3月末現在、148社の会員企業が加盟しています。設計、施工、建設工事、メーカー、コンサルタント、金融機関など、上下水道の開発、整備から運営に至るさまざまな技術とノウハウを持つ企業とともに、海外、特にアジア地域での商談会の開催や共同プロジェクトの受注などを通じ、官民連携による水ビジネス案件の形成に取り組んだ結果、これまでに42案件を受注してきました。

とりわけ力を入れている分野として、北九州市の姉妹都市であるベトナム・ハイフォン市での高度浄水処理技術の普及促進があります。この技術は「U-BCF (Upward Biological Contact Filtration) : 上向流式生物接触ろ過」と呼ばれ、北九州市が独自に開発し国内特許を有するものです。都市化による河川の水質悪化な

どに悩む多くの新興国にとって、ほかの技術と比較して安価に建設、維持管理できるため、国民の生活の向上に大きく寄与するとともに、北九州市および地元企業にとっても、新たなビジネスチャンスが広がるものと期待されています。

また、カンボジアでは、2016年1月、水道行政を所管する「工業手工芸省」と北九州市海外水ビジネス推進協議会、北九州市が覚書を締結し、全国を対象とした都市水道の整備と普及に向け、北九州市および同推進協議会の会員企業が官民連携でコンサルティングを行うことが確認されました。

今後は、設計から建設、維持管理に至る「パッケージ型」のインフラ整備受注に向け、官民による取り組みをさらに本格化させていく予定です。

## さまざまな波及効果

上記のような交流を経て、2015年6月、カンボジアのフン・セン首相が北九州市を訪問しました。また、これを契機として、2016年3月29日、北九州市は、プノンペンと姉妹都市協定を締結しました。今後は、一国の首都との交流がより広く、深いものになるとともに、地元企業にとってもビジネスチャンスの拡大が期待されることです。

北九州市は、成長著しいアジアの活気を取り込み、まちの活性化を図るうえでも、引き続き上下水道分野の国際貢献やビジネスをさらに活発化させていきます。



ハイフォン市に完成した浄水場